ウェブの可能性を最大限に導き出すために――標準化組織の全貌

Leading the Web to Its Full Potential...

W3Cスペース

URL http://www.w3.org/

❸ W3C 設立10周年記念シンポジウム開催

text : 平川泰之
W3C Asian Communications Officer／慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科プロジェクト助手

ボストンで10周年を祝う記念シンポジウムが開催

1994年10月、ウェブの発明者ティム・バーナーズ・リーは米国マサチューセッツ工科大学計算機科学研究所（MIT/LCS）にW3Cを設立しました。それから10年。発明後15年が経つウェブとともに歩んできたW3Cは次の10年を見据えるとともに、過去を振り返るW3C設立10周年記念シンポジウム“W3C10”を2004年12月1日に米国ボストンにて開催しました。

式典にはウェブやインターネットを代表する著名人らが多数参加しました。日本からは唯一の講演者としてiモードを手掛けるNTTドコモの夏野剛氏が登壇し、世界の最先端を行く日本のモバイル環境についての講演と、実世界も含めたあらゆるものがウェブと融合する将来に向けたビジョンについてのパネルディスカッションに参加していただきました。

W3Cとして最初に言明した“To Lead the Web to Its Full Potential（ウェブの可能性を最大限に導き出すために）”という使命については、この10年で一定の成果が上げられたものと考えられます。しかしウェブの可能性は現状の限りではありません。W3Cが推進するセマンティックウェブの実現をはじめ、注目を集める非接触型ICや無線IDタグ、あるいはITSに代表される高度情報交通システムや各種センサー技術などとの連携により、ウェブという情報基盤はますますシームレスに生活の中に浸透し、必要不可欠なものとなるでしょう。このような将来に向け、W3Cはこれからも主導的存在であり続けることが求められています。

式典最後のレセプションでは、10本の青いろうそくが立てられた青と白を基調にしたW3Cカラーのケーキが用意され、W3Cの10歳の誕生日を祝いました。またこれを受けて米国マサチューセッツ州は、2004年12月を「W3C月間」と定め、ウェブコミュニティーからW3Cへの尊敬と信頼、支持とともに、W3Cによる多様なウェブコミュニティーへの関心と功績が称えられました。

ドメインとアクティビティーをもう一度おさらいしてみる

一口にウェブと言ってもその対象は非常に多岐にわたります。そこでW3Cでは、取り扱う技術トピックごとにアクティビティーと呼ばれるグループを設置しています。アクティビティーはさらに大きく4つのドメインに分類され、それぞれ次のようなトピックを取り扱っています。

●アーキテクチャードメイン: ウェブを支える基盤技術の改善と自動処理の推進
- DOMアクティビティー: DOM
- 国際化アクティビティー: W3C技術の国際化
- URIアクティビティー: URI, IRI

カラーでお見せできないのが残念ですが、これがW3Cの10歳を祝ったクリームでURIが書かれたケーキ。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

・ウェブサービスアクティビティー: SOAP, WSDL, WS-Choreography, WS-Addressing, Semantic Web Services
・XMLアクティビティー: XML, XML Schema, XML名前空間, XMLバイナリー特性, XSL, XSLT, XPath, XML Query, XInclude, XML Base, XLink, XPointer

●インタラクションドメイン: ウェブ情報に対する新しいアクセス手法の探求
・Compound Document Formatsアクティビティー: XML複合文書
・Device Independenceアクティビティー: CC/PP
・Graphicsアクティビティー: SVG, PNG, WebCGM
・HTMLアクティビティー: HTML, XHTML, XHTML Basic, XML Events, XFrames, HTML-Print
・Mathアクティビティー: MathML
・Multimodal Interactionアクティビティー: EMMA, InkML, DPF
・Styleアクティビティー: CSS
・Synchronized Multimediaアクティビティー: SMIL, Timed Text
・Voice Browserアクティビティー: VoiceXML, SRGS, SSML, CCXML
・XFormsアクティビティー: XForms

●技術と社会ドメイン: ウェブ上の政策的課題に取り組む支援技術の提供
・Patent Policyアクティビティー: Patent Policy
・Privacyアクティビティー: P3P
・Semantic Webアクティビティー: RDF, RDF Schema, OWL, RDF Query
・XML Key Managementアクティビティー: XKMS, XML署名, XML暗号化

●ウェブアクセシビリティーイニシアティブ(WAI)ドメイン: 障害を持つ人を含むすべての人が使いやすいウェブの実現
・WAI International Program Officeアクティビティー: 普及啓蒙活動
・WAI Technicalアクティビティー: ガイドラインの策定(WCAG/UAAG/ATAG)、評価・修正ツールの評価と開発、W3C技術の検証

このほかドメインの横断的なアクティビティーとして、W3C技術の品質保証を確保するQuality Assurance(QA)アクティビティーがあります。なお実際に標準策定作業を進めるワーキンググループ(WG)などの作業グループはそれぞれのアクティビティーに所属することになります。

さて3回目を数えました本連載ですが、事情により休止させていただくこととなりました。非常に短い間でしたが、機会がありましたら、また本誌上でみなさまにお目にかかれますことを願いつつ、しばしのお別れとなります。ありがとうございました。

●参考
W3C10
URL http://www.w3.org/2004/09/W3C10
W3C月間
URL http://www.w3.org/News/2004#item196
アクティビティー一覧
URL http://www.w3.org/Consortium/Activities
WG/IG/CG一覧(SVG形式)
URL http://www.w3.org/2003/02/W3COrg.svg

今月のホットワーキンググループ

RDF Data Accessワーキンググループ／Semantic Web Best Practices and Deploymentワーキンググループ

URL http://www.w3.org/2001/sw/

W3Cが推進するセマンティックウェブアクティビティーでは、現在その基盤となるRDFとOWLの勧告化に続き、RDFデータへのアクセス方法の標準化を目指すRDF Data Access WGと、具体的なデータに基づいたセマンティックウェブの実現と適用を推進するSemantic Web Best Practices and Deployment WGの2つのWGが活動を進めています。

いずれのWGも2004年2月に開始された新しいWGですが、RDF Data Access WGではRDF Queryに関する草案を、Semantic Web Best Practices and Deployment WGではセマンティックウェブの応用に関する草案がそれぞれ複数発表されています。

さらに本アクティビティーで注目すべきは、2004年10月末に行われた「生命科学分野へのセマンティックウェブの応用に関するW3Cワークショップ」です。遺伝子やタンパク質といった生命科学に関する複雑で膨大な科学技術データをウェブ上に公開して共有するという挑戦的な課題に対し、生命科学分野の専門家とウェブ技術の専門家が一堂に会し、セマンティックウェブ技術の活用について、熱い議論を交しました。

©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.